

⑤ラット、マウス、ハムスター及びヒト由来培養肝細胞 ^3H -チミジン取込み試験

ラット、マウス、ハムスター及びヒト（いずれも詳細不明）のから単離した肝細胞を 0.5×10^6 cells/mL で播種し、24 時間培養後にフルアジホップ P ブチル（0、50、100、250、500 及び 1,000 μM ）を添加し、処理 24 時間後に ^3H -チミジンを添加し、 ^3H -チミジン添加後 24 時間の肝細胞増殖に及ぼす影響が検討された。

いずれの投与群においても検体投与による影響は認められなかった。（参照 3）

（4）甲状腺に対する影響検討試験（フルアジホップ P ブチル）

フルアジホップ P ブチルは、甲状腺ホルモンに構造が類似しているため、Wistar ラット（一群雄 10 匹）にフルアジホップ P ブチル（原体：0、10、100 及び 2,000 ppm：検体摂取量は 0、0.661、6.39 及び 131 mg/kg 体重/日）を 4 週間混餌投与し、甲状腺に対する影響が検討された。

2,000 ppm 投与群において、 T_4 の有意な減少、肝臓絶対及び比重量増加、甲状腺比重量増加及び小葉中心性肝細胞肥大が認められた。 T_3 及び TSH に検体投与による影響は認められなかった。また、病理組織学的検査において、甲状腺及び下垂体組織に対する影響は認められなかった。（参照 3）

（5）細胞形質転換試験

ハムスター新生児腎線維芽細胞（BHK21/C13）に原体を 0.24~2,600 $\mu\text{g/mL}$ の濃度で添加して代謝活性化系存在下で細胞形質転換試験が実施され、結果は陰性であった。（参照 3）

（5-6）原体混在物 10 の影響検討試験

ICR マウス（一群雄 10 匹）にフルアジホップブチル及び原体混在物 10（投与量及び平均検体摂取量は表 91 参照）を 4 週間混餌投与して、原体混在物 10 の影響が検討された。

表 91 投与量及び平均検体摂取量

投与群	検体	投与量 (ppm)	平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)
A	フルアジホップブチル（純品）	500	2.11
B	フルアジホップブチル（原体）	500	2.17
C	フルアジホップブチル（純品）	490	2.19
	原体混在物 10	10	0.45
D	フルアジホップブチル（純品）	498	2.01
	原体混在物 10	2.5	0.01